



# ふれあいひろば

新潟市民病院  
広報委員会

[患者とともにある全人的医療]



## 病院機能評価の受審・認定について

副院長 五十嵐 修一

新潟市民病院は、昨年夏に「病院機能評価 3rdG : Ver3.0」を受審し認定されました。病院機能評価とは、病院の医療の質や運営管理の状況を第三者機関である「日本医療評価機構」によって客観的に調査、評価され、一定の水準に達していると認められた場合に認定される制度です。

単に医療水準が高いレベルに保たれているかだけでなく、安心安全な医療を提供できているか、患者さんの目線で患者さんが中心となった医療がなされているか、管理運営システムや教育システムの詳細など、広範囲にわたって落ち度がないかをサーベイヤーが病院に実際に来て評価を行います。

病院機能評価で審査される内容は、下記のように広範囲に渡ります。

2日間に渡り、7名のサーベイヤーがチームに分かれ、各部署を隈なく巡り、カルテレビュー、書面審査に加え、インタビュー形式の口頭試問が行われ、厳格に調査されます。

当院はこの認定制度が始まって間もない1998年6月に初回の審査認定 (Ver.1) を受審承認され、以後、5年の更新ごとに新しいバージョンにて審査更新し、この度は6回目 (3rdG : Ver3.0) の承認となりました。

この病院機能評価は病院の質を担保する指標の一つですので、次の5年に向けて患者さんにとっても職員にとっても、より良い病院となることを目指して組織として取り組み続けたいと思います。

- ・患者中心の医療を実践しているか
- ・地域への情報発信と連携は適切になされているか
- ・安全な医療を提供できる医療安全のシステムは構築されているか
- ・医療関連感染に対してコントロールする感染制御のシステムは構築されているか
- ・医療の質を監視し、改善する体制は整えられているか
- ・チーム医療による診療・ケアの実践はなされているか
- ・良質な医療を提供するための院内の各部門は機能しているか
- ・病院の理念の達成に向けた病院組織運営はなされているか
- ・組織、施設の管理は適切になされているか
- ・臨床研修、学生実習は適切になされているか



# 原因不明消化管出血の診断について

## 消化管出血とは

消化管出血は、食道・胃・小腸・大腸など消化管のいずれかの部位で出血が起こる状態です。出血の原因は様々で、潰瘍・腫瘍・炎症・毛細血管拡張などがあります。血便や黒色便で気づかれることもあります。貧血で見つかることもあります。

## 原因不明消化管出血

消化管出血の原因を特定するためには、通常、上部消化管内視鏡検査（食道・胃・十二指腸を観察、いわゆる胃カメラ）と、下部消化管内視鏡検査（大腸を観察、いわゆる大腸カメラ）が行われます。

しかし、これらの検査を行っても出血源が特定できない場合があります。このような出血源が不明な消化管出血を「原因不明消化管出血」といい、このような状況では出血源が小腸である可能性が考えられます。

## 診断と治療

小腸は消化管の70%を占める特に長い部分で、上下部内視鏡では観察することが難しい場所です。小腸からの出血を特定するためには、特別な検査方法が必要になります。

小腸を観察する方法として、カプセル内視鏡（図1）と、バルーン小腸内視鏡（図2）があります。

カプセル内視鏡は、小さなカメラが内蔵されたカプセルを飲み込むことで、小腸の内部を撮影する検査です。飲み込んだカプセルが自然に消化管を通過する際に、内蔵の小型カメラで撮像記録していきます。



図1.当院で使用しているカプセル内視鏡



図2.当院で使用しているダブルバルーン小腸内視鏡

消化器内科 田覚 健一

バルーン小腸内視鏡は、長いスコープとバルーンの付いたオーバーチューブを組み合わせたものです。バルーンを使用することで、長い小腸を折りたたむように縮めながら奥へ進み内視鏡で内部を直接観察します。出血に対して止血したり、ポリープを切除したりすることもできます。実際には、カプセル内視鏡で発見した病変を、バルーン小腸内視鏡で観察し、止血術などの処置を行うことがほとんどです（図3、図4）。

## まとめ

原因不明の消化管出血で上下部消化管内視鏡検査による診断が困難な場合、小腸出血が原因である可能性があります。

この場合、カプセル内視鏡やバルーン小腸内視鏡のような検査が有効であり、これらの検査を通じて出血源を特定し、適切な治療を行うことができます。

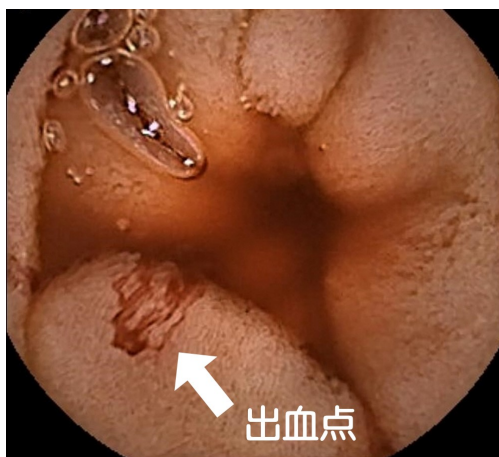


図3.カプセル内視鏡で、小腸の毛細血管拡張からの出血を確認



図4.バルーン小腸内視鏡を用いて、毛細血管拡張をアルゴンプラズマ凝固で止血

# 令和5年度 病院患者満足度調査の結果報告

業務検討・病床管理委員会

昨年11月から12月にかけて、「病院患者満足度調査」を実施しました。この調査は、入院患者さん、外来患者さんに、当院の医療サービスについてお伺いしているものです。

アンケートには、1,896名（入院396名、外来1,500名）の方からご協力いただきました。皆さまにお礼を申し上げるとともに、調査結果の概要をご報告いたします。

## 病院満足度

当院に対する総合的な評価の「全体としてこの病院に満足している」の項目に対し、肯定的な回答を頂いた患者さんの割合（＝満足度）は、次のとおりです。

	令和3年	令和4年	令和5年
入院	96.2%	91.6%	95.9%
外来	90.6%	87.9%	90.4%

入院・外来ともに、昨年度を上回る結果となりました。満足度のさらなる向上にむけ、取り組んでいきます。

### 【入院】満足度が高かったもの

アンケートの項目	満足度
全体としてこの病院に満足している	95.9%
全体としてこの病院を信頼している	95.6%
医師の技術や知識を全面的に信頼することができた	95.1%
入院期間に納得している	94.7%
医師は、検査、治療、手術、リハビリなどの内容と日程をわかりやすく説明した	94.5%

### 【入院】満足度が低かったもの

アンケートの項目	満足度
職員は入院したらどのくらい費用がかかるか説明した	42.9%
苦情を言いたいときに受け付けてくれる場所や担当者がわかりやすい	48.2%
見舞客や家族との面会時間は都合がよかった	57.3%
退院する時に、いくら支払うのか、前もって知らせてくれた	59.4%
支払額の内訳がわかりやすく、納得のいくものだった	61.5%

## 満足度の高かった項目、低かった項目

満足度が高かった項目、満足度が低かった項目について、それぞれ上位、下位の5つを下記にまとめました。

満足度が高かった項目は、今後もサービス水準の維持や、更なる向上を目指します。

一方、満足度が低かった項目については、満足度の向上につながるよう、具体的な改善活動を1つ1つ進めてまいります。

また、皆さまから寄せられた「自由記述によるご意見」についても病院全体で共有し、日々の業務の見直しや、患者サービス向上に向けた、貴重なご意見として活用させていただきます。

皆さまからいただいた評価、お叱り、励ましをもとに、当院の目指す「患者さんに信頼されるぬくもりのある医療」を提供し続けるよう、より一層、努力を重ねていきます。

お気づきの点がございましたら、1階にある「患者相談窓口」や、院内に設置している「ご意見箱」まで、お声をお寄せください。

### 【外来】満足度が高かったもの

アンケートの項目	満足度
他の診療所や病院から、この病院を紹介されて満足している	91.8%
この病院に最初にかかる時、「紹介」が必要だという仕組みを理解している	90.6%
全体としてこの病院に満足している	90.4%
医師の技術や知識を全面的に信頼することができた	90.3%
全体としてこの病院を信頼している	89.9%

### 【外来】満足度が低かったもの

アンケートの項目	満足度
待っている間、あとのどのくらい待つのか、わかっていた	37.9%
苦情を言いたいときに受け付けてくれる場所や担当者がわかりやすい	38.0%
待っている間、職員から「お詫び」や「ねぎらい」の言葉や会釈を受けた	42.1%
予約した時間通りに診療してもらった	52.3%
リハビリテーションに関する、病院スタッフの対応	62.1%

# 認定看護師のご紹介

## ～がん化学療法看護認定看護師の活動～

外来化学療法室 がん化学療法看護認定看護師 三富 弘子

日本人の2人に1人は生涯でがんになると言われている時代の今、がんと診断された患者さんが納得し、安心して治療を受けるためには、医療者のサポートが必要です。

「がん化学療法看護認定看護師」は、治療を選択する際の意味決定支援、治療内容の説明、副作用や苦痛症状の緩和など、様々な場面で患者さんやご家族をサポートできるよう活動しています。

安全、安楽、確実な薬剤の投与管理はもちろんのこと、患者さんが自分らしく過ごし、治療と生活を両立できること、生活の質を維持できることを目指しています。

がん薬物療法を受ける患者さんは、治療効果や予後に対する不安、治療によって生じる身体的苦痛、社会生活への影響など、様々な不安を抱えています。治療中に起こる問題や不安を患者さんやご家族と一緒に考え、適切な対応で解決できるように、医師や薬剤師、栄養士や医療福祉相談員など多職種で連携した支援も行っています。

がん薬物療法を行う場所は入院から外来へと移行しています。外来化学療法室を利用される患者さんも年々増加しており、多くの患者さんが治療後、自宅で療養しながら生活しています。

「どのように療養生活を送ればよいのか?」「具合が悪い時は、どうしたらよいのか?」など心配事は多いと思います。

そのような心配事が軽減でき、安心して自宅で過ごせるように、外来化学療法室では、点滴治療が開始される時や、治療薬が変更になる時に、医師と共に治療方法や副作用、自宅療養時の注意点などの説明を行っています。

がん治療はもちろん、自宅療養生活も十人十色です。患者さん個々に寄り添い、安心して治療継続できるよう支援しています。「がん患者指導管理」といった個別相談支援も行っておりますので、がん治療に関するご相談の際は是非ともお声かけください。

## 東曾野木小学校の皆さんから素敵なお贈り物をいただきました

今年も、東曾野木小学校の児童の皆さんから素敵なお贈り物をいただきました。

いただいた贈り物は、院内のさまざまなお部屋に掲示させていただきます。この場を借りて御礼申し上げます。

市民病院には、長期療養中のお子さんの学習のために「東曾野木小学校院内学級 のぞみ学級」が設置されています。そのご縁もあり、患者さんに向けたメッセージを添えた、掲示用の作品を贈ってくださっています。

子どもたちの笑顔あふれる作品を、ぜひ、ご鑑賞ください。



当院のホームページにも、バックナンバーを掲載しています。

新潟市民病院 ふれあいひろば

検索

発行元：新潟市民病院 広報委員会

新潟市中央区鐘木463番地7 Tel 025-281-5151